

アルヴォ・ペールト (1935-)

今回、私が20世紀音楽の中で注目している作曲家アルヴォ・ペールトを取り上げます。アルヴォ・ペールト(1935年、エストニア生まれ)はその創造的な作品群によって、音楽の本質に関する理解を一変させた作曲者の一人であると言われています。

その作品群は、一般的に2つの年代に分けられる。初期の作品ではショスタコーヴィチやプロコフィエフ、バルトークから12音技法やミュジック・セリエルの様式などからの影響を強く受けたが、その後、西洋音楽のルーツへの回帰に転向し古楽へ、やがて独自のティンティナブリ(鈴声)様式を見出す。

初期の頃の現代主義的作品はあまり有名ではなくとも、彼の全作品によって我々の音楽に対する感覚は変わったと考えられます。

国籍、文化的な背景や年齢を問わず、数多くの人々がペールトの音楽が持つ時間を超越した美しさと奥深い精神的なメッセージに触発され、影響を受けてきたと言われています。

彼の作品はコンサートで演奏される以外にも、ここ数十年に渡って映画、ダンス、演劇および他のマルチメディアな媒体で取り上げられています。

(ユニヴァーサルジャパンの紹介文を参考)



主な受賞歴

- 1995年 アメリカ芸術文学アカデミー協会音楽賞
- 2008年 レオニー・ソニング音楽賞
- 2011年 レジオン・ドヌール勲章シュバリエ賞
- 2014年 グラミー賞合唱部門(『アダムの嘆き～ペルト合唱作品集』)
- 2014年 高松宮殿下記念世界文化賞

<代表作をCDにて紹介>

- * 交響曲3番
- * カントウス—ベンジャミン・ブリテンの思い出に
- * タブラ・ラサ
- * アリーナのために
- * 鏡の中の鏡
- * 連祷(リタニ) 他

時間の都合で曲目が変更になる事があります。



我孫子オーデオファン(AAFC) 分科会へのご案内 (会員による自主講座)

日 時／ 2019年1月14日(月) 13:30～15:45

場 所／ 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者／ 山本 一成 参加自由・入場無料

問合わせ／090-5422-547 脇田 <http://www.aafc.jp/>